

## ガイドの活用方法探る

### 保健医療福祉未来図会議

陸前高田市

陸前高田市の保健・医療・福祉関係者らが一堂に会する市保健医療福祉未来図会議は23日、高田町の市役所で開かれた。本年度2回目の会議には、市民を含む32人が参加。作成を進めている「はまかだスポットガイド」について意見を交換し、具体的な活用方法を探った。



今回のテーマは、「はまかだスポットガイドと居場所づくりについて①」。同市被災絆づくりアドバイザーの岩室紳也さんが「未来図会議が目指してきたこと」、一般社団法人「SAVE TAKATA」の佐藤睦志さんが「はまかだスポットガイド(デモ版)について」、市民生部保健課の生活支援コーディネーター・金野康子さんが「はまかだスポットにおける実例紹介について」と題してそれぞれ発表した。

同会議は、市民誰もが人の輪の中に入り、自然と語り合う雰囲気づくりを目指す「はまってけらいん、かだってけらいん運動」(略称・はまかだ)を推進し、市が掲げる「ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」の実現を目指そうと実施。震災後から数えると、今回で通算78回目の開催となった。

参加者たちは、陸前高田という地域に合ったソーシャルキャピタル(「きずな(=ネットワーク)」と「ほだし(=お互い様)」のある居場所)を形成する必要性を確認。そのうえで、市が取り組み始めた生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加について学んだ。

佐藤さんは、現在作成中の「はまかだスポットガイド(デモ版)」の進捗よく状況などについて説明。IT技術を活用して人と人をつなぐ仕組みづくりに挑戦していることに触れたあと、金野さんが実際に見てきたはまかだスポットの様子を紹介した。

次回の未来図会議は、7月20日(木)午後1時30分から市役所4号棟の第6会議室で開催。「地域に入っていく」ということは?~その地域の持っている力を醸成していくためには~をテーマに設定しており、保健・医療・福祉関係者だけでなく一般市民の参加も呼びかけている。

後1時30分から市役所4号棟の第6会議室で開催。「地域に入っていく」ということは?~その地域の持っている力を醸成していくためには~をテーマに設定しており、保健・医療・福祉関係者だけでなく一般市民の参加も呼びかけている。

後1時30分から市役所4号棟の第6会議室で開催。「地域に入っていく」ということは?~その地域の持っている力を醸成していくためには~をテーマに設定しており、保健・医療・福祉関係者だけでなく一般市民の参加も呼びかけている。

陸前高田市の保健・医療・福祉関係者らが一堂に会する市保健医療福祉未来図会議は23日、高田町の市役所で開かれた。本年度2回目の会議には、市民を含む32人が参加。作成を進めている「はまかだスポットガイド」について意見を交換し、具体的な活用方法を探った。

同会議は、市民誰もが人の輪の中に入り、自然と語り合う雰囲気づくりを目指す「はまってけらいん、かだってけらいん運動」(略称・はまかだ)を推進し、市が掲げる「ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」の実現を目指そうと実施。震災後から数えると、今回で通算78回目の開催となった。

今回のテーマは、「はまかだスポットガイドと居場所づくりについて①」。同市被災絆づくりアドバイザーの岩室紳也さんが「未来図会議が目指してきたこと」、一般社団法人「SAVE TAKATA」の佐藤睦志さんが「はまかだスポットガイド(デモ版)について」、市民生部保健課の生活支援コーディネーター・金野康子さんが「はまかだスポットにおける実例紹介について」と題してそれぞれ発表した。

参加者たちは、陸前高田という地域に合ったソーシャルキャピタル(「きずな(=ネットワーク)」と「ほだし(=お互い様)」のある居場所)を形成する必要性を確認。そのうえで、市が取り組み始めた生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加について学んだ。

佐藤さんは、現在作成中の「はまかだスポットガイド(デモ版)」の進捗よく状況などについて説明。IT技術を活用して人と人をつなぐ仕組みづくりに挑戦していることに触れたあと、金野さんが実際に見てきたはまかだスポットの様子を紹介した。

次回の未来図会議は、7月20日(木)午後1時30分から市役所4号棟の第6会議室で開催。「地域に入っていく」ということは?~その地域の持っている力を醸成していくためには~をテーマに設定しており、保健・医療・福祉関係者だけでなく一般市民の参加も呼びかけている。